

医療環境にある子供や家族への療養支援に関する実態調査

【療養支援票 C：療養支援を実施しており、療養支援専門職を配置している病院向け】

想定される回答者：医療職、療養支援専門職

本調査においては、次に掲げる業務のうち1つ以上を実施している場合を、療養支援を実施しているものとして取り扱います。

- ① プレバレーション
- ② ティーチング（入院、疾患、治療など）
- ③ ディストラクション（処置、検査、痛みなど）
- ④ 治癒的あそび

※詳細は「回答の手引き」をご参照ください。

本調査では、子供及び家族への療養支援を専門に行う資格として、以下の3資格を総称して「療養支援専門職」とします。

- ・チャイルド・ライフ・スペシャリスト（CLS）
- ・ホスピタル・プレイ・スペシャリスト（HPS） ※
- ・子ども療養支援士（CCS）

※HPSは、英国の養成課程修了者及び日本ホスピタル・プレイ協会養成研修修了者いずれも含みます。

1. 療養支援を実施する職員の雇用・配置状況

問 1 【療養支援を実施している職種(療養支援専門職について)】

子供・家族に対し療養支援を行う療養支援専門職の実人数をお答えください。（数値回答）

※「専任」とは、業務の大部分が療養支援の実施である職員を指します。

※「0人」の場合は「0」と記入ください。不明な場合は空欄としてください。

	常勤		非常勤	
	専任	兼任	専任	兼任
1. CLS	人	人	人	人
2. HPS（英国の養成課程修了者）	人	人	人	人
3. HPS（日本ホスピタル・プレイ協会養成研修修了者）	人	人	人	人
4. CCS	人	人	人	人

問 2 【療養支援専門職の雇用枠について】

① 貴病院における専任の療養支援専門職の雇用枠について教えてください。（当てはまるもの全て選択）

- ☐ 1. 療養支援専門職としての雇用枠を設けて雇用
- ☐ 2. 看護職として雇用
- ☐ 3. 事務職として雇用
- ☐ 4. 保育職として雇用
- ☐ 5. 心理職として雇用
- ☐ 6. MSW等の福祉職として雇用
- ☐ 7. その他（ ）
- ☐ 8. 専任の療養支援専門職はいない

② 貴病院における兼任の療養支援専門職の雇用枠について教えてください。（当てはまるもの全て選択）

- ☐ 1. 療養支援専門職としての雇用枠を設けて雇用
- ☐ 2. 看護職として雇用
- ☐ 3. 事務職として雇用
- ☐ 4. 保育職として雇用
- ☐ 5. 心理職として雇用
- ☐ 6. MSW等の福祉職として雇用
- ☐ 7. その他（ ）
- ☐ 8. 兼任の療養支援専門職はいない

問 3 【療養支援を実施している職種(療養支援専門職以外について)】

療養支援専門職以外（資格保有者以外）で、子供・家族に対し療養支援を行う職員の实人数をお答えください。

（数値回答）

※「専任」とは、業務の大部分が療養支援の実施である職員を指します。

※「0人」の場合は「0」と記入ください。不明な場合は空欄としてください。

	常勤		非常勤	
	専任	兼任	専任	兼任
1. 医師	人	人	人	人
2. 看護師	人	人	人	人
3. 心理職（臨床心理士・公認心理師）	人	人	人	人
4. 保育士	人	人	人	人
5. 医療ソーシャルワーカー	人	人	人	人
6. リハビリ職（OT/PT等）	人	人	人	人
7. その他医療職（ ）	人	人	人	人

	専任	兼任
8. 外部委託・ボランティア	人	人

2. 療養支援実施体制

問 4 【療養支援の実施方法】

子供・家族に対する療養支援の実施方法として、最も近いものをお選びください。（一つ選択）

- ☐ 1. 多職種チームで実施している
- ☐ 2. 一部のケースで多職種チームで実施している
- ☐ 3. 主に単一職種が実施している
- ☐ 4. 明確な体制はなく、ケースに応じて柔軟に対応している
- ☐ 5. その他 ()

問 5 【療養支援チームの編成方法】

子供・家族に対する療養支援を実施している職員の編成方法として、最も近いものをお選びください。（一つ選択）

- ☐ 1. 専任チームとして常設されている
- ☐ 2. 特定部署（病棟等）単位で構成されている
- ☐ 3. 必要時に関係職種が集まる連携型（非固定）
- ☐ 4. ケースごとに担当職種が協力する形式
- ☐ 5. その他 ()

3. 療養支援スタッフ採用経緯等

問 6 【療養支援開始時期及び療養支援専門職を配置した時期】

①療養支援開始時期と②療養支援専門職を初めて配置した時期を教えてください。（数値入力）

※西暦でご記入ください。

①療養支援開始時期	年
②療養支援専門職を初めて配置した時期	年

問 7 【療養支援専門職の確保方法】

療養支援専門職の確保方法を教えてください。（当てはまるもの全て選択）

- ☐ 1. 既存職員を異動させ、担当として配置した
- ☐ 2. 既存職員の業務内容を拡張して対応している
- ☐ 3. 新たに職員を採用した（専任）
- ☐ 4. 新たに職員を採用した（兼任）
- ☐ 5. 外部人材（ボランティア・NPO等）を活用した
- ☐ 6. 外部の療養支援専門職と連携して実施している
- ☐ 7. その他 ()

問 8 【療養支援専門職配置の背景】

療養支援専門職を採用・配置した経緯を教えてください。（当てはまるもの全て選択）

- ☐ 1. 患者等のニーズがあった
- ☐ 2. 支援の質の向上のため
- ☐ 3. 院長・小児科長等が積極的に推進
- ☐ 4. 規定の要件充足のため（例：がん拠点病院等）
- ☐ 5. その他 ()

4. 療養支援の対象患者

問 9 【療養支援の対象患者】

① 貴病院における療養支援の対象患者として、当てはまるものをお選びください。（一つ選択）

- ☐ 1. 特定の患者に限定せず広く実施している
- ☐ 2. 特定の患者に限定して実施している

② 「2. 特定の患者に限定して実施している」をお選びいただいた場合は、対象患者として当てはまるものを全てお選びください。（当てはまるもの全て選択）

- ☐ 1. 初めて手術（特に日帰り手術含む）を受ける患者
- ☐ 2. 侵襲的な検査・処置（痛みや恐怖を伴う）を受ける患者
- ☐ 3. 小児集中治療室（ICU・PICU）に入院する患者
- ☐ 4. 小児がん（血液腫瘍含む）で治療を受けている患者
- ☐ 5. 長期入院（概ね1か月以上）となる患者
- ☐ 6. 強い不安・恐怖・ストレス反応が見られる患者
- ☐ 7. 慢性疾患（糖尿病、心疾患、喘息等）で継続治療が必要な患者
- ☐ 8. 頻回入院や再入院を繰り返す患者
- ☐ 9. 発達障害・神経発達症など特別な配慮が必要な患者
- ☐ 10. 外科的治療（手術前後）を受ける患者（一般）
- ☐ 11. 救急搬送・急性期医療を受ける患者
- ☐ 12. 終末期医療・緩和ケアの対象患者
- ☐ 13. グリーフケアが必要な患者・家族
- ☐ 14. 心理的ケアを特に必要とする患者（抑うつ・トラウマ反応等）
- ☐ 15. 保護者・家族への支援が必要なケース
- ☐ 16. きょうだい支援が必要なケース
- ☐ 17. 被虐待が疑われる患者
- ☐ 18. その他 ()

5. 療養支援の活動内容と効果

問 10【療養支援の活動内容】
令和7年度（2025年4月～2026年3月）1年間で実施した療養支援の内容とその件数を教えてください。
※不明な場合は「空欄」、実施していない場合は「0」とご記入ください。
※「4. 治癒的遊び」: 子供が入院環境において感じるストレス・不安などに焦点を当て、遊びを通して支援すること。

1. プレパレーション	件
2. ティーチング（入院、疾患、治療など）	件
3. ディストラクション（処置、検査、痛みなど）	件
4. 治癒的遊び	件
5. 家族支援	件
6. きょうだい支援	件
7. グリーフ・ブリーブメント	件
8. フォローアップ	件
9. 退院・復学支援	件
10. その他（ ）	件

問 11【療養支援の効果】
令和7年度（2025年4月～2026年3月）1年間で実施した療養支援を振り返って、療養支援を実施することによる効果として、①～④それぞれにおいて、当てはまる選択肢を全てお選びください。（当てはまるもの全て選択）

- ①子供に対する効果

☐ 1. 子供の発達支援の促進

☐ 2. 子供の日常的安心感・心理的安全性の向上

☐ 3. 子供の感情表出の促進

☐ 4. 子供の情緒的回復・安定の促進

☐ 5. 子供の医療・治療・医療機器への親しみやすさの向上

☐ 6. 子供の医療体験に向けた心の準備の促進

☐ 7. 子供の自身の身体・病状への理解促進

☐ 8. 子供の苦痛・恐怖心・ストレスの軽減

☐ 9. 子供の苦痛・恐怖心・ストレスへの対処の促進

☐ 10. 子供の社会・地域・学校等とのつながりの維持・促進

☐ 11. 子供の喪失体験への情緒的な支援の促進

☐ 12. 子供に対する効果として上記に該当するものはない
- ②家族・きょうだいに対する効果

☐ 1. 家族・きょうだいの子供の反応等への理解の促進

☐ 2. 家族・きょうだいの子供の支援への参加の促進

☐ 3. 家族・きょうだいの対処能力の向上

☐ 4. 家族・きょうだいと医療者とのコミュニケーションの促進・改善

☐ 5. きょうだいへの心理社会的支援の促進

☐ 6. 家族・きょうだいの悲嘆・喪失体験への支援

☐ 7. 家族・きょうだいに対する効果として上記に該当するものはない
- ③他職種・病院組織に対する効果

☐ 1. 多職種連携・職種間の役割分担の促進

☐ 2. 他の職種の子供・家族への理解促進

☐ 3. 他の職種と子供・家族とのコミュニケーションの促進・改善

☐ 4. アセスメントの質の向上

☐ 5. 治療・処置の円滑化（負担の減少、処置時間の短縮等）

☐ 6. スタッフの心理的負担の軽減

☐ 7. 子供が親しみやすい院内環境の整備の促進

☐ 8. 患者・家族中心の医療の促進

☐ 9. 支援の質の向上・標準化

☐ 10. 他職種・病院組織に対する効果として上記に該当するものはない
- ④退院後の効果

☐ 1. 再入院や救急受診の減少

☐ 2. 治療（服薬・通院等）の継続性の向上

☐ 3. 在宅療養への適応の向上

☐ 4. 医療や病気に対する理解の向上

☐ 5. 医療に対する不安や恐怖の軽減

☐ 6. 自己効力感（自分でできるという感覚）の向上

☐ 7. 学校・園生活への復帰の円滑化

☐ 8. 日常生活の安定

☐ 9. 退院後の効果として上記に該当するものはない

問 12【療養支援の効果（自由記述）】
療養支援の効果として貴病院で**実感されていること**を、①子供に対する効果、②家族・きょうだいに対する効果、③他職種・病院組織に対する効果、④退院後の効果について、自由に記入してください。（前問で挙げている項目を含めていただいても結構です。箇条書き形式で、具体的・簡潔にご記入ください）

①子供に対する効果	（例）MRI検査前にプレパレーションを実施したことで、鎮静剤を使用せず検査を完了できた。 ・ ・ ・
②家族・きょうだいに対する効果	（例）保護者の不安やストレスが軽減し、医療者との相談がしやすくなった。 ・ ・ ・
③他職種・病院組織に対する効果	（例）医師・看護師が治療や看護に専念しやすくなった。 ・ ・ ・

④退院後の効果	(例) 外来受診や継続治療への抵抗感が軽減した。 ・ ・ ・
---------	---

6. 療養支援の課題

問 13【療養支援の実施上の課題】

子供・家族への療養支援を実施する際の課題を教えてください。(当てはまるもの全て選択)

- | | |
|--------------------------|-----------------------------------|
| ☐ | 1. 療養支援に対応する人員や時間が不足している |
| ☐ | 2. 療養支援に関する専門的知識・スキルや研修機会が不足している |
| ☐ | 3. 療養支援の役割分担が明確ではない |
| ☐ | 4. 多職種間の連携・情報共有が十分でない |
| ☐ | 5. 療養支援に必要な環境（スペース等）が不足している |
| ☐ | 6. 療養支援の対象患者や優先順位の設定が難しい |
| ☐ | 7. 院内の理解・協力（医師・管理者等）が十分でない |
| ☐ | 8. 療養支援の効果を評価・可視化することが難しい |
| ☐ | 9. 療養支援に関する標準的な手順・ガイドラインが整備されていない |
| ☐ | 10. 現状の体制で大きな課題はない |
| ☐ | 11. その他 () |

問 14【療養支援専門職の配置上の困難・課題】

療養支援専門職の配置に当たって、課題がありましたら教えてください。(当てはまるもの全て選択)

- | | |
|--------------------------|---------------------------------|
| ☐ | 1. 療養支援専門職の専門資格を有する人材の供給が限られている |
| ☐ | 2. 適切な経験・スキルを有する人材の確保が難しい |
| ☐ | 3. 採用活動を行っても応募が少ない |
| ☐ | 4. 採用後の定着が難しい（離職等） |
| ☐ | 5. キャリアパスが明確でない |
| ☐ | 6. 研修・教育体制が十分でない |
| ☐ | 7. 専任化・常勤化への移行が難しい |
| ☐ | 8. 人件費の確保が困難である |
| ☐ | 9. 診療報酬等の収益に結びつきにくい |
| ☐ | 10. 継続的な財源確保の見通しが立ちにくい |
| ☐ | 11. 配置の基準（適正人数・配置形態）が不明確であった |
| ☐ | 12. 院内の理解・協力（医師・管理者等）を得るのが難しい |
| ☐ | 13. 業務内容の標準化が難しい |
| ☐ | 14. 他職種との連携・情報共有が難しい |
| ☐ | 15. その他 () |

7. その他

問 15【療養支援の実施や療養支援専門職について】

子供・家族に対する療養支援や、療養支援専門職について、ご意見がありましたら自由に記入してください。(自由記述)

--

8. ご担当者様とヒアリング調査へのご協力の可能性

問 16【担当者連絡先】

※集計・問い合わせ等のため、病院名・ご担当者様のお名前・メールアドレス・電話番号は必ずご記入ください。
ご協力よろしくお願いします。

病院名	
部署名	
ご担当者様お名前	
メールアドレス	
電話番号	

問 17【ヒアリング調査協力可否】

アンケート調査に基づき、今後、ヒアリング調査を実施することを予定（30分～1時間程度、主にオンラインでの実施を想定）しています。ヒアリング調査にご協力いただくことは可能でしょうか。（一つ選択）

- | | |
|--------------------------|--------------|
| ☐ | 1. 協力可能 |
| ☐ | 2. 状況次第で協力可能 |
| ☐ | 3. 協力は困難 |